

●港則法及び海上交通安全法の一部を改正する法律

※数字は海上保安庁調べ

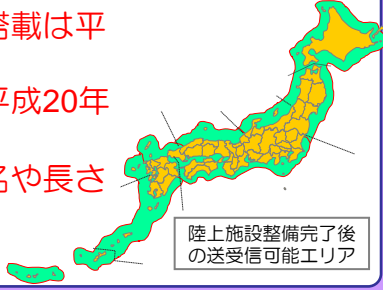
【背景】

航行環境に不慣れな船舶による海難

平成13～18年に航路設定海域で発生した総トン数100トン以上の衝突・乗揚げ海難の約3割が、航行環境に不慣れな船舶等による海難

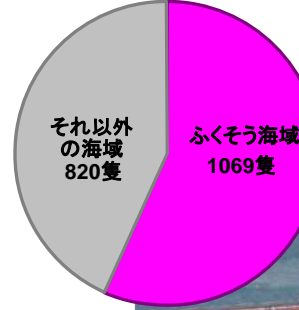
船舶自動識別装置（AIS）の普及

- ・搭載義務船舶への搭載は平成20年7月に完了
- ・陸上施設の整備は平成20年度中に完了
- ・リアルタイムで船名や長さ等が把握可能に



ふくそう海域における重大海難

大規模海難に至る恐れのある大きい衝突・乗揚げ海難の約6割がふくそう海域で発生



※ふくそう海域とは、東京湾・伊勢湾・瀬戸内海・関門海峡

明石海峡の多重衝突海難



(H20.3.5)

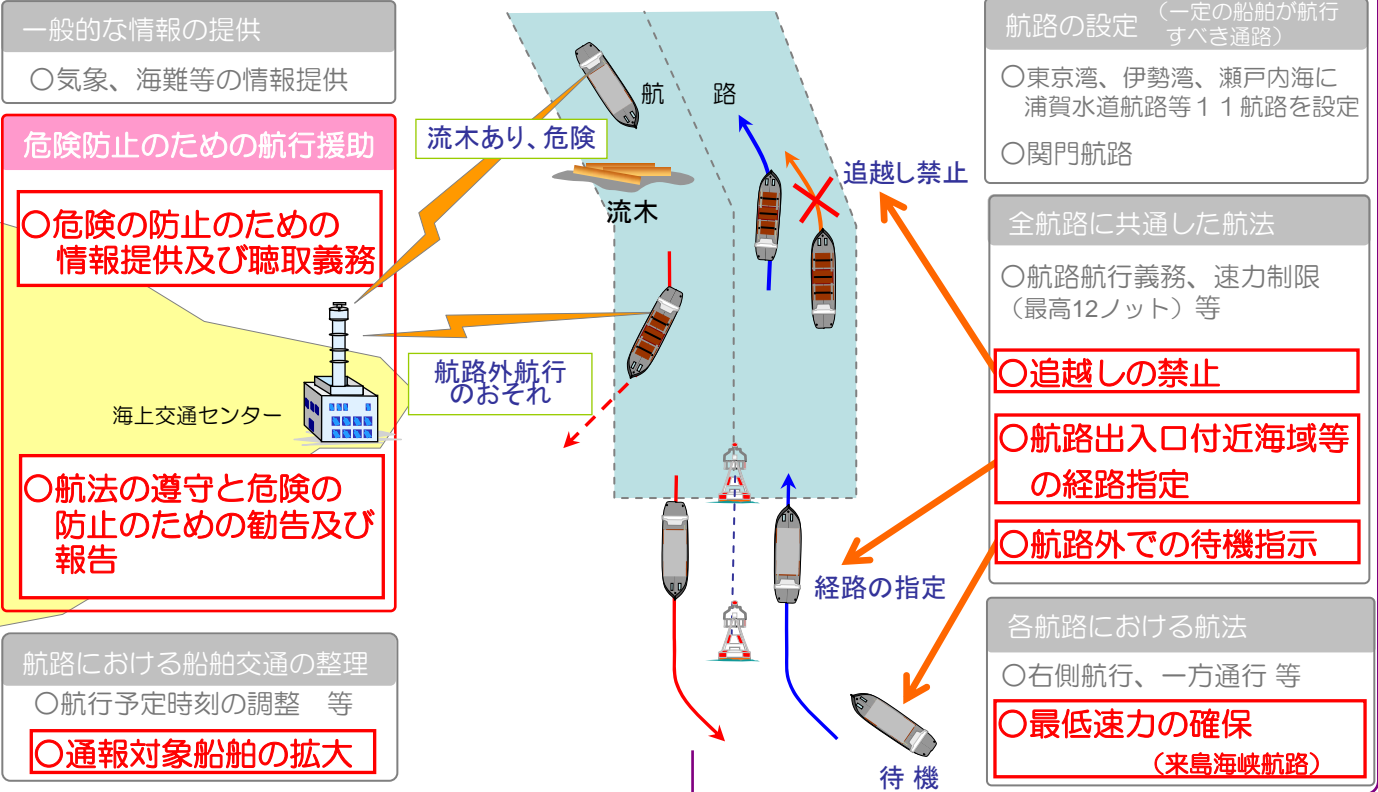
H15～19年 総トン数100トン以上の貨物船・タンカー・旅客船の海難隻数

【取組の方向性】

改正追加事項

我が国の航法や海域特性に不案内な外国船の増加、AIS導入で海上交通センターにおける船名把握が自動化されたこと等を踏まえ、**危険防止のための航行援助を充実**

ふくそう海域における海難発生状況を踏まえ、海域特性に応じた**新たな航法を設定**



○ その他の施策

- ・船舶のトン数のみの基準で行ってきた港内の船舶交通の整理に、船舶の長さも基準に追加し、効率化
- ・異常な気象・海象時における港内からの退去命令等の制度化 等